



## 三重大学

教育学部学校教育講座

**中西良文** (なかにし よしふみ)

所在地：津市栗真町屋町 1577

<http://www.edu.mie-u.ac.jp/>

**Profile** — 中西良文  
 三重大学教育学部准教授。  
 専門は教育心理学（動機づけ）、教育評価。著書は『三重大学「4つの力」スタートアップセミナー 2011年度版』（共著、ムイスリ出版）など。



三重大学は、5学部（教育学部、人文学部、医学部、工学部、生物資源学部）からなる総合大学ですが、全ての学部が1キャンパスにあるという全国でも珍しい大学です。その中で教育心理学教室は、教育学部の学校教育講座の中に教育学教室とともに設置されています。

キャンパスは海に面しており、シーサイドキャンパスと表現されることもあります。隣接する町屋海岸は学生の憩いの場所にもなっており、夏には多くの学生がバーベキューなどをして楽しんでいます。また、ウミガメの産卵が行われるところであるため、大学生による環境保全活動も積極的に行われています。そのキャンパスは京都・津市にあり、津駅からバスで10分程度でアクセスできる他、通学生の多くは最寄りの近鉄江戸橋駅から、徒歩15分程度で通っています。名古屋から津駅ないし江戸橋駅まで約1時間ということからも、愛知県から通学している学生も数多くおります。

### カリキュラム・教育活動

現在、教育学心理学教室という単位での学生の募集は行っておらず、教育学教室とともに、小学校教員養成コースである学校教育コース（学校教育教員養成課程）と非教員養成コースである人間発達科学コースを担当しています。いずれのコースカリキュラムも、教

育心理学と教育学にかかわる授業が準備され、それらを総合的に学ぶことで、コースの目標を満たすことをめざしています。

さて、私たちの教室に関わる授業の紹介に先立って、三重大学全学の教育について紹介します。三重大学は教育目標として、「考える力」「感じる力」「コミュニケーション力」「（これらを総合した力としての）生きる力」の四つの力を育てることを掲げています。これらの力にはそれぞれ下位要素が設定され、たとえば、考える力として「批判的思考力」「論理的思考力」「問題解決力」など、感じる力として「感性」「モチベーション」など、コミュニケーション力として「討論・対話力」などが取り上げられ、これらは心理学で扱われる概念とも関わりが深いものであるといえます。

これらの全学教育目標について、単に名目として掲げるのではなく、実際にそれらが達成されることを考えるならば、教員の話聞くだけという典型的な講義スタイルの授業だけでは限界があります。そのため、三重大学では、これらの教育目標の達成のための教育方法として、PBL (Problem/Project-based Learning) というやり方を積極的に取り入れています。PBLは問題解決やプロジェクト達成を通して学習を進めていくやり方です。このような方法は古くから存在したのですが、PBLという名称

としては、カナダのマクマスター大学における医学教育を端緒としたものです。そのため、本邦においても医学教育を中心としてPBLがさかんに取り入れられていますが、三重大学では医学教育に限らず、各専門領域に応じたPBL教育の展開を進めています。

なお、三重大学での全学的な教育改善を担当する部署として、高等教育創造開発センターが設置されていますが、この原稿を書いている現在、複数の心理学者が専任教員として所属しており、そこでの教育改善にも心理学的知見が活かされています（筆者も兼任教員として所属しています）。

教育学部においても、教員養成PBL教育という名称で、PBL教育が展開されています。たとえば、教員養成コースでは3年次・4年次の教育実習を含め、毎年、教育現場で学習を行うよう「教育実地研究」という名称が含まれる授業科目が複数展開されています。この実地研究の科目では、現場での実地の体験を通して、「理論」と「実践」の往還による、実践的専門性の取得がめざされています。

教育心理学教室では、上記の実地研究を含め、複数のPBL型の授業を開設しています。まず、「実地研究」に対応する科目として、教育心理学教室が担当する学校教育コース、人間発達科学コースそれぞれに、「学校教育実地研究Ⅲ・Ⅳ／人間発達実地研究Ⅲ・

IV」という科目を開設しています。具体的にこの実地研究では、県内のある地域の幼稚園／小学校／中学校において、9月上旬に4日間の実地体験をするとともに、その中で2時間分の「コミュニケーション」に関する授業を行います。その授業実施にあたっては、5月より毎週定期的に集まって、授業案づくりを進めます。これらの活動を通して、学生に「コミュニケーション」に関する心理学的知見を身につけてもらうとともに、それを学校現場で授業として扱えるようになることをめざしています。

このコミュニケーションというテーマに関しては、非教員養成課程である人間発達コースの独自科目として「コミュニケーション実習」という科目が設定されており、コミュニケーションスキルトレーニングに関わる活動を、学生がその対象者となって受講することができます。同じく人間発達コース独自科目として「クリティカルシンキング」「モチベーションサイエンス」といった科目が開設されており、これらは全学教育目標として掲げられているものを直接に扱った科目であるといえます。

これらに加え、教育心理学教室独自のPBL科目として、各教員のコアとなる領域ごとに「〇〇心理学実践技法」という科目が設定されています。たとえば、筆者の担当領域は学習心理学ですが、ここでは「学習心理学実践技法」という科目が設定されています。この授業では、中学生に記憶についての授業を行うことを通して、学習心理学の内容を学ぶだけでなく、実際に現場で用いることができる実践的な学習心理学的知識を身につけることもめざしています。

一方、私たちの教室は大学院（修士課程）の担当も行っており

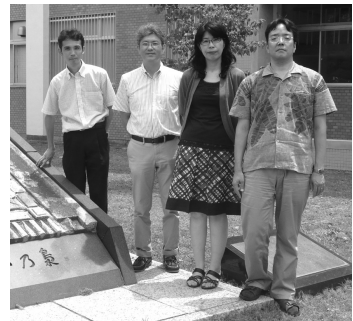
ますが、そこでは、所定の授業の受講によって、一般社団法人学校心理士認定運営機構が発行する学校心理士の基礎資格が取得可能です。また、私たちの教室の大学院生は授業の受講だけではなく、学部生に指導的立場で関わることも行っています。特に、上記の実地研究では、学部生に対するチューターとして参加することで、学部生の授業づくりを支援する立場を体験し、将来、心理学的知見を活かしながら指導的な立場で活躍できることを期待しています。

#### 教員の紹介

現在、教育心理学教室には、社会心理学研究室の松浦均教授、認知発達心理学研究室内の南学教授、発達臨床研究室の瀬戸美奈子准教授と学習心理学研究室の中西良文の4名の教員が在籍しています。なお、このほかに、関連する講座等（特別支援教育講座・幼児教育講座・教育実践総合センター）にも心理学を専門とする教員が在籍しています。

教室の運営としては、学生と教員の距離が非常に近いことが特徴であり、定期的に研究室の垣根を越えて、合同でゼミを行ったり、年に一度夏に合同で合宿を行ったりしています。この夏合宿では、PBL型の課題が出され、研究室の垣根を越えたグループで課題に取り組んで発表を行うことが行われています。その際には、日付を越える時間まで学生が課題に取り組む、教員が先に寝してしまうというようなこともあります。また、不定期に外部講師を招聘した合同ゼミなども行われています。

さて、私たちの教育心理学教室では、特に「コミュニケーション」をキーワードとして、教員同士も共同しながらいくつかの活動を行



教育心理学教室専任教員。右から、南学・瀬戸美奈子・松浦均・中西良文。

っています。前述の実地研究やコミュニケーション実習の授業では、教育心理学教室の複数の教員が授業の担当に関わっています。そして、教員免許状更新講習でも、コミュニケーションスキルトレーニングを扱ったものを複数教員で開設し、現場の教員に向けた情報の発信を行っています。そして、これらのフォーマルな活動とは別に、教育心理学教室の学生を中心とした「わくわくコミュニケーションクラブ」というボランティア活動を2004年から行っています。これは津市内の小学校に募集を出して、応募してきた小学生を対象として、社会的スキルトレーニングを中心とした活動を、三重大学教育学部の教室で年に12回前後のペースで行っているものです。これらの活動の一部については、心理学的な研究としてもまとめられています。そして、このような活動によって、「コミュニケーション力を育てられる人材を地域に輩出する」ことをめざしています。



わくわくコミュニケーションクラブのワンシーン。